



随筆

## 日本環境文化史考

—風土と民族のルーツから—

橋本 奨\*

E. B. Tylor による文化の定義を借りて、『日本文化』を定義づけてみると、『日本文化とは、日本の風土で、日本民族が有史以前からの永い歴史過程で、培われてきた知識、信仰、道德、慣習、法律、習生等の複合的総体である』ということができる。このように日本文化をとらえると、日本文化についての私見をもつためには、先ず日本列島の環境、風土と日本民族の生いたちのルーツからのこと、及びその特殊性を知っておかねばならない。

日本列島は、大古からの激しい地殻変動の繰り返しで、大陸とつながったり、多島海になったりしながらでき上がってきた。新第3紀（約200～2500万年前）には、糸魚川、静岡を結ぶ線を境に、大地溝帯（フォッサマグナ）の大断裂運動を起して、東北日本と西南日本の地質が大きく違うようになり、又、形状が折れ曲るようになって、第4紀洪積世の始め（約150～200万年前）には、大陸と接続して現状の形が殆ど完成された。一方、化石人類に関しては、これまで、東北アジアで最も古いものは、北京原人（約50万年前）にみられるように、すべて中国出土のものである。その後、度重なる寒暖、長期にわたる氷河時代（現在も続いている）が続き、縄文前の今から約2万年前は、世界的に極めて寒冷な時代で、当時の海面は現在よりも約80～140mも低く、日本列島は大陸と地続きであった。この時代の人々は、厳しい寒さに適応し、これに打ち勝って、かなり進んだ文化（旧石器時代後期の文化）を発達させ、これをもって既に日本列島へ渡来していた。このことは、世界で最も古い約12000年前の土器が日本列島から出土していることから類推できる。又、

明石、牛川、葛生、浜北の各原人（新人といわれる）が、石器や骨器、を用いて生活していたことが考古化石で明らかにされている。当時、中国からの原人の子孫が、己の食糧となる動物を追って、既に日本列島へ渡来していたように思われる。

しかし、今から約12000年前頃から気候が温暖化し始め、海面が上昇し、約6000～1万年前に、日本列島は大陸と断絶されて、対馬暖流が日本海に流れ込むようになった。暖流の流れ込みで日本海の水蒸気がシベリヤの冷たい西風にあおられて、中央山脈にぶちあたり、これが冬には日本海側では大雪となった。このため、日本海側は住みにくくなり、日本海側と太平洋側、つまり裏日本と表日本という地方別ができ上がった。

縄文時代には、気候の温暖化で人々が海洋へ乗り出し、東日本の太平洋岸（表日本）を中心に農耕活動を伴わない、狩猟採取の漁撈的海洋的性格の強い文化が発達した。しかし、西日本では、植採、狩猟、一部焼畑が行われた。当時の出土土器の比較では、西日本のものは極めて粗雑、簡素なのに反し、東日本のものは、極めて精緻、華麗、複雑で、その種類、質、量も、はるかに西日本より優れ、又、当時の遺跡も東日本に集中していた。前にも記したように、大地溝帯の断裂運動でできた東北日本と西南日本の異質が、縄文時代の動植物にも大きく影響し、両者に違いを起こさせ、更にかれらを狩って食糧とする縄文人にも影響を与え、東日本と西日本を分つ東西対立文化を生起させる原動力になったのかも知れない。この西日本の劣勢は、縄文の終りから弥生時代の始めにかけて、新しい生産力、つまり稲作農業と鉄器の導入で逆転され、西日本が東日本より優位に立った。更に弥生、古墳の時代へと進むにつれ、文化は西から

\*橋本 奨 (Susumu, HASHIMOTO), 大阪大学, 工学部, 環境工学科, 教授, 医博・工博, 環境化学・水質管理工学

東へ進み、大和政権が畿内に確立されるとともに、日本文化の中心は畿内に移った。このように、日本列島は、東西の対立した文化が先古代からぬり分けられている。この東西の対立は、時には東が優位を占め、またあるときには西が文化のにない手になっている。関西人と関東人の気質の違い、相撲の東と西、又、源氏の東の陸兵文化と平家の西の海兵文化、或は野球の東西戦のように、日本列島の文化は南北（表日本と裏日本）の対立よりも、東日本と西日本の地域対立が強く、その相互運動によって培われ、発展してきたようで、この源は既に約2万年前の後期旧石器時代に出現していたように思われる。特に畿内の政治力は、農耕の主護神や八百万の自然の神々を祭り、人々の信仰と生活を一体化させることにより、この東西の対立を和らげ、解消することに努め、約2千年にもわたって日本文化を育んできた。このように、日本文化は東西対立で支えられ、現在もそれが続いているように思われる。

一方、地理的には、日本列島は日本海と世界で最も広大な太平洋に抱えられ、大陸から人類や動植物が海を渡って他へ出て行けないような、行き止まり、吹きだまりの列島になっている。又、西南、東北に長く、険しい山があり、河川は短小、急流で、古代からの暖かさと寒さの幅が大きいので、多様な森林が発達し、春夏秋冬の四季の調和した、極めて地方色の変化に富んだ自然の豊かさをもった風土になっている。このような素晴らしい風土を求めて、縄文前に大陸からやって来た人々や、大陸と断絶されてから朝鮮海峡や津軽海峡を丸木船のような船で渡ってきた人々が、現日本民族の祖先であり、日本最古の基底を支えた人々に違いない。大陸や南方の遠くから、より進んだ文化を身につけた人々が、ユーラシア大陸東端の離れ小島にやって来て、長い間かかって特殊化してきたように思われる。このようにみても、日本文化は、ダーウィンのガラパゴス諸島の生物のように、離れ小島日本の渡来特殊文化だといえる。又、大陸や南方、北方の厳しい生活の葛藤の世界から、幸の列島を求めて逃れてきた人々、つまり今日でいうベトナムやカンボジアか

らのポートピープルのような人々が、古い昔から吹きだまり、行き止まりの日本列島で形づくられ、渡来人による吹きだまり、行き止まりの特殊化した多重混成文化だということになる。

人間というものは、幼い時に植えつけられた文化的伝統をいつまでも忘れないもので、人々の中に長い間生き続けるものである。又、人間も動物であって、その自然環境、つまり風土に適応してのみ生きられ、風土は食糧生産の場で、人間文化の基底を支えているものである。食糧源の稲作は、弥生の時代に家畜なしで日本列島に伝えられた。家畜が居らないので、食糧の蛋白源は漁撈と狩猟に求め、これが今日の日本人の魚好き、植物食中心の食事の習性を生むようになったと思われる。

又、日本列島にもたらされた稲作と鉄器は、人々の思想、行動にも大きな影響を与え、今日の「日本文化」の中で、純日本的なものと呼ばれる類のものは、すべてこの時代につくられる出発点となった。又、この稲作と鉄器の伝播が、大陸の他に比べて著しく遅れたので、日本の風土の食いつぶしも他に比べて極めて少く、今日の日本文化の発展の基になったように思われる。

現在の日本から、欧米的要素(キリスト教)、中国、インド的要素(儒教、仏教、道教)、又、その他あらゆる海外に根ざすものを取り去ったならば、純日本的なものが残るはずである。私は現在、この純日本的なものに少なからず心ひかれていものである。当時の人々は、豊かな自然の中で、恵み深い神や祖先を敬い、自然に感謝し、自然の間に横たわる秩序を肯定し、人間と自然を調和させる行為として、呪術が生活の中心であった。この呪術は、カミと人とを媒介する手段であったが、又、山や海の幸、穀物の実りを招来する経済的な意味をもっていた。人は自然と合体融和し、自然の一部として存在することはあっても、自然である土地を収奪することはなかった。

このように、古代の人々は全く文化の真空状態、原始蒙昧な野蛮人で決してなかった。豊かな五穀に恵まれ、けじめ正しく、また美しく変わっていく四季に生活を順応、適合させて暮

し、季節の変化、自然のなりゆきに合わせて、素直に暮らしていたにちがいない。これは、“はれ”と“け”の言葉で示されるように、日常のけがれを清める祭りの行事を生活の土台とすることで、実現されていた。

このような素直な意識は、大昔から現在に至るまで、外来文化（仏教、儒教、キリスト教、いろいろな主義・思想、近代科学技術等）を抵抗なしに飲み込んで、咀嚼し、自分の骨肉とする才能を植えつける結果となった。この意識には、固定観念や主義・主張のとらわれがなく、実に爽やかに大らかに、自由、素直に、いからず、こだわらず、お陰様という心があり、これが所謂和魂というもので、これまでの和魂洋才といわれる洋才が所謂外来文化のことである。しかし、和魂洋才があるとすれば、洋魂和才もあるはずで、今日の日本が、世界に向かって更に前進発展するには、和魂を基底にして和洋両魂洋和両才でなければならないのではないかと考える。

日本文化は、ラッキョ文化、玉ねぎ文化だという人がある。玉ねぎとラッキョのように、むけどもむけども実が出てこないで、むいた皮ばかりで、何もなくなってしまふからだという。

又、或る人は、フロシキ文化、スシ文化だという。フロシキのように何でも包み込み、又、スシのようにいろいろな具を米飯とノリで巻いたようなものだからだそうである。しかし、私は、大らかで爽やかな、豪放野性味あふれる情緒豊かな素直な縄文、弥生の文化が基底にあればこそ、日本文化は竹の子のように、一枚一枚皮を脱ぎ棄てて育ってきたように思えてならない。そこで、私は、日本文化を竹の子文化としたいのである。

吾々日本民族の祖先である縄文、弥生時代の古代人は何を考えていたのか。これをもっと深く掘り下げることが日本文化の本質究明に通じ、このことが、今後の日本文化の発展に大いに資するのではないかと考える。